

## 母子の虫歯予防

『お母さんのお口のケアは、お子さんの虫歯予防に大切なんですよ』。と、日本歯科大学付属病院マタニティ歯科外来では、妊婦らに虫歯の治療や予防を呼びかけています。

虫歯菌は、歯の表面にすみつきやすい菌で、生まれてばかりで歯が生える前の子供には、いないと考えられています。子供の家族、特に母親が虫歯菌を持っていると、自分が使ったスプーンやお箸で食事を与える際などに、唾液を介して虫歯菌が感染するとみられます。

また、岡山大学大学院医歯薬学総合研究科の仲井雪絵助教の研究を紹介しましょう。妊娠中から子供が生

後9カ月になるまで、母親がキシリトール入りのガムを噛んでいたグループと、噛んでいなかったグループを比較すると、ガムを噛んでいた母親のグループの子供は、2歳になるまで虫歯菌が見つかった割合がハッキリと低かったのです。仲井助教は、「子供が胎内にいる『マイナス1歳』から、虫歯予防の為に出来る事があります』と話しています。

また歯の健康を保つ為に、日本歯科医師会は、①歯を磨く②フッ素配合歯磨きを使う③頻繁な間食など口の中に常時食べ物があるような生活を改める④定期的に歯科検診を受ける事が重要としています

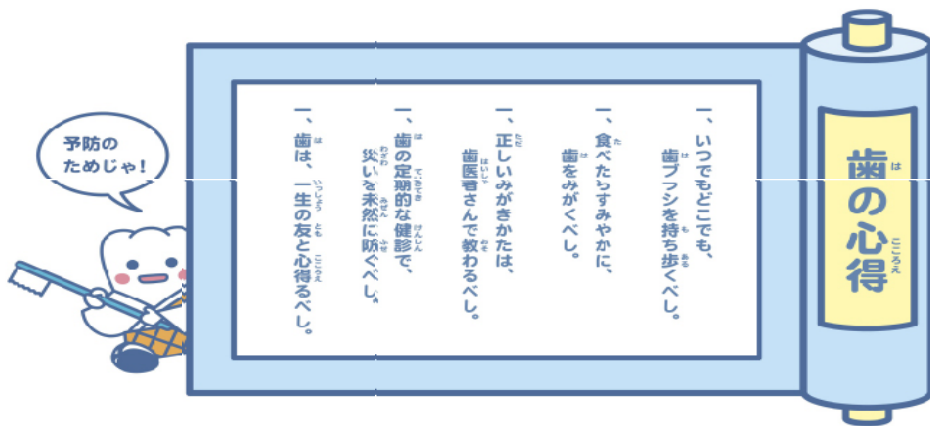
## 避難場所での『お口のケア』

東日本大震災の被災地で地元の歯科医師らが避難場所を回り、『お口のケア』の大切さを訴えている。虫歯・歯周病・

対策に加え、胃腸炎  
インフルエンザなど  
感染症の予防にも歯  
みがきが役立つとい  
う。  
東北大歯学部も歯  
ブラシ持参で本格的  
に避難所の巡回を始

めた。自由に水が飲  
めず、歯みがきもま  
まならない環境では  
細菌が繁殖しやす  
く、唾液の出が悪く  
なり、自浄作用も効  
きにくく感染症を起

こしやすくなる。  
『毎食後が難しければ1日1回でもいい。朝食前に磨くのが効果的』と坪井明人准教授(加齢歯学)は話す。



## 子供の虫歯の特徴

学校健診で最も多い疾病がむし歯です。生えてから間もない歯は弱く、また甘い飲食物を好むことが多いので子供は虫歯になりやすいことで知られます。子供の虫歯の多くは奥歯の溝から発生します。この予防には溝を埋めるシーラントや、フッ化物の利用が有効です。

《牛久市歯科医師会よりお知らせ！》  
牛久市およびその周辺地域の歯科衛生士の皆さん、牛久市歯科衛生士バンクをご存知ですか？  
詳しくは牛久市歯科医師会ホームページで <http://www.ushiku-dental.com/>